

導入事例
らくらく
ボード

デジタル教材の「つながりやすさ」を実感!

インタラクティブな授業で意欲アップ、苦手意識のある子のサポートも



三浦市立南下浦小学校は、神奈川県・三浦半島から金田湾を臨む海岸沿いに立地する、豊かな自然に囲まれた小学校です。地域に根差したアットホームな教育活動を行うとともに、校内のICT化も積極的に推進されています。同校で「らくらくボード」の活用に取り組まれているのが、少人数の算数クラスで指導する大川ゆい先生(専科)。その先進的な授業について、詳しくお話を聞かせていただきました。また、金沢信一校長、三浦市教育委員会・学校教育課の荒井俊彦指導主事には、今後のビジョンなども伺いました。



導入商品

らくらくボード
IWB-651EB

※ディスプレイは別売りです。

電子黒板の強みは、視覚に訴える「わかりやすさ」

大川先生は電子黒板をはじめ、ICT機器を意欲的に取り入れて、ほかのクラス、また他校に先駆け、モデルケースとなるような新しい授業作りを行われていると伺いました。

大川先生:「らくらくボード」は学習室に据え置きになっていて、私の算数ではほぼ毎時間使っています。少人数教育のため、6年生のクラスを2分割して12人での授業を行っていますが、そのおかげで児童1人に1台ずつChromebookが行き渡り、さらに電子黒板とも連携させるといった、充実した環境が実現しています。メモアプリ「Google Keep」を利用して、児童がそれぞれChromebookから書き込んだ意見の共有も行っていきます。インターネットで無料公開されているジオボードのアプリもよく使いますね。

※Chromebook, Google Keepは、Google LLCの商標です。

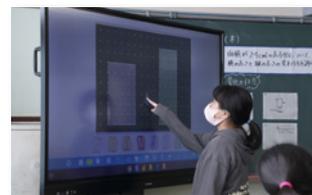
電子黒板のどのような点が学習効果につながるのでしょうか。

大川先生:まずは視覚への訴求力、わかりやすさだと思います。「らくらくボード」は画面が大きききれいで、拡大・縮小も簡単です。これを見ることで、児童は「今、自分が何を学んでいるのか」をはっきり認識できます。例えば、水の「かさ」を勉強した時、透明なコップに水を入れて実演して見せました。これだけでも、言葉で説明するよりわかりやすくなりますが、さらに書画カメラを使って水の入ったコップを画面に写し、拡大してはっきり見せてあげて、タッチペンを使って画面上に書き込みも。例えば、コップに10分割の目盛りを書き込んで、今どこまで水が入っているかなどを示すわけです。

ほかにもどのようなシーンで効果を感じられますか。

大川先生:テンポの良さも電子黒板ならではの。学びには段階がありまして、例えば九九や公式などは、思考する前にまずは暗記しておく「パターン」です。こういったものを覚える時は、スライドを使ってテンポよく問題を出します。画面が大きくて、次々に表示するものを切り替えられる「らくらくボード」は、このような学び方とも相性がいいですね。

荒井指導主事:単に成績を向上させるという一面だけで捉えていません。大川先生の授業は少人数クラスで、しっかり1人ひとりを見られる内容です。これが例えば30人のクラスになると、今度は進度の差が出てくるのが想定できます。このような時、いわゆる「できる子」だけでなく、苦手意識のある子どもを支援するという意味でも、電子黒板やデジタル教材にできることがあるのかなと、幅広い効果について期待しています。



自身を表現するためのツールとして、子どもたちの中心に電子黒板を

「らくらくボード」に期待することなどがありましたら教えてください。

大川先生:よりインタラクティブな授業を組み立てていきたいと思っています。小学校の段階の子どもたちは、まだまだ思考に表現力が追い付かないという、もどかしい時期にあります。それをしっかり補助してくれるツールとなることを期待しています。

金沢校長:子どもたちにはいつでも積極的に「ミニ先生」になってもらって、周りを巻き込んで、説明や発表に励んでほしい。その時、その輪の中心に電子黒板があって、それぞれの表現をサポートしている——、これが理想的な形と考えています。最近では、大川先生の授業を見たほかの教科の先生方からも、「自分もぜひ使いたい」という声が次々に上がってきています。使えばきちんと子どもたちの力になってくれることはすでに実感していますし、大きな可能性が見えてきたなと感じています。

取材にご協力いただいた先生



三浦市立
南下浦小学校

金沢 信一 校長



三浦市立
南下浦小学校

大川 ゆい 先生



三浦市教育委員会
学校教育課

荒井 俊彦 指導主事



CLIENT DATA

導入学校 / 三浦市立南下浦小学校
所在地 / 神奈川県三浦市
設立 / 明治35年